

統計スポット情報

NO. 162

21.12.4

福井県総合政策部政策統計課

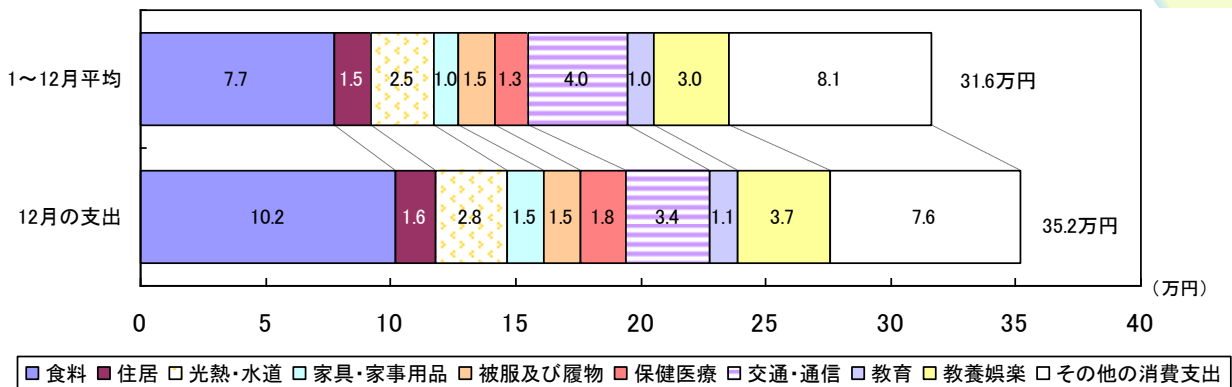
— ふくい師走 —

今年も残すところ1か月となりました。何かと忙しい12月ですが、今回は、総務省が実施している「家計調査」などを通して、福井の師走に関するデータを見てみましょう。



1 12月のお金の使い方

(図1) 福井市の1世帯当たり消費支出金額の年平均と12月の比較



資料: 家計調査・H18~20平均(総務省統計局)

福井市の1世帯当たりの12月の消費支出金額は約35万2千円で、年平均の消費支出金額より3.6万円多くなっています。

そのうち約7割の2.5万円が食料の購入に使われており、12月に支出が増える一番の理由となっていることが分かります。

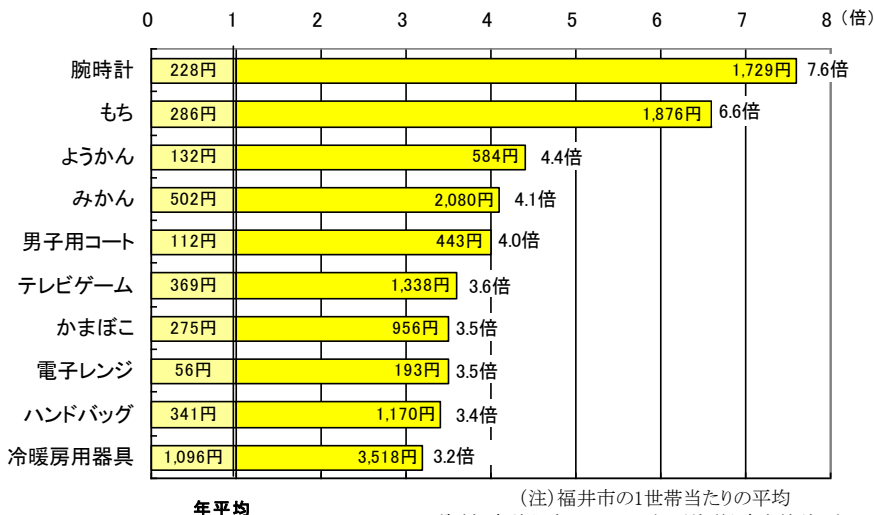
また、12月は、家具・家事用品、保健医療、教養娯楽にかかる金額も1年で最も多くなっており、年末は何かと出費が増えるようです。

では、具体的にどのようなものの購入が12月に多くなっているか見てみましょう。

<12月に支出金額が増える品物は>



(図2) 12月の支出金額が最も多い品目のうち年平均との差が大きい品目のランキング



(注) 福井市の1世帯当たりの平均
資料: 家計調査・H18~20平均(総務省統計局)

12月の支出金額が最も多い品目について、平成18年から20年の年平均の支出金額を1として、12月の金額と比較してみると、「腕時計」への支出金額は月平均の7.6倍、「もち」は6.6倍、「ようかん」は4.4倍となっています。

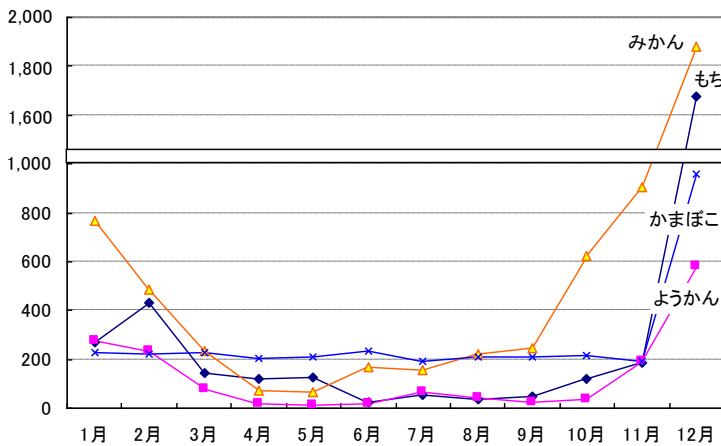
「もち」や「かまぼこ」などの食料品やテレビゲーム、身の回り品、家電製品など、クリスマスプレゼントやお正月用品の購入、あるいは新年を迎えるに当たっての模様替えなどで12月は支出が多くなるようです。

<12月に支出が増える品目の月別消費金額>

では12月はどれだけ他の月と違うのでしょうか。食品とそれ以外に分けて見てみましょう。

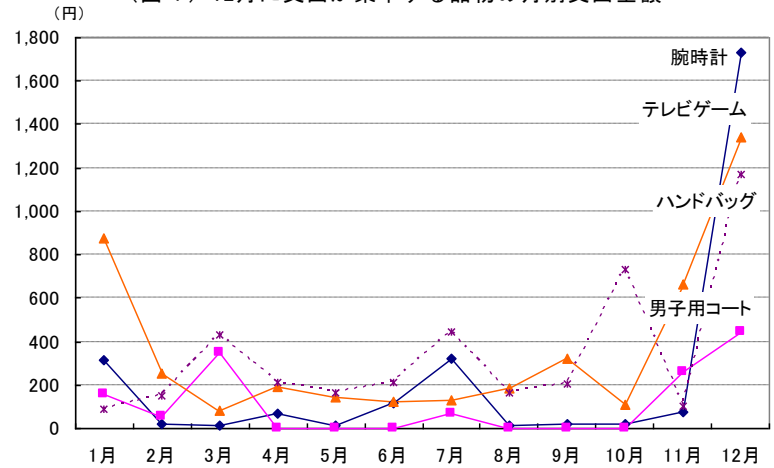


(図3) 12月に支出が集中する食品の月別支出金額



(注) 福井市の1世帯当たりの平均
資料: 家計調査・H18~20年平均(総務省統計局)

(図4) 12月に支出が集中する品物の月別支出金額



(注) 福井市の1世帯当たりの平均
資料: 家計調査・H18~20年平均(総務省統計局)

まず、食品について見てみましょう(図3)。冬の果物の代表である「みかん」は、12月の支出が、11月、1月を引き離して最も多くなっていることがわかります。お正月に食べる人が多い「もち」や「かまぼこ」も、12月の支出が圧倒的に多くなっています。福井の冬のお菓子といえば水ようかんですが、「ようかん」も、12月に最も多くなっています。

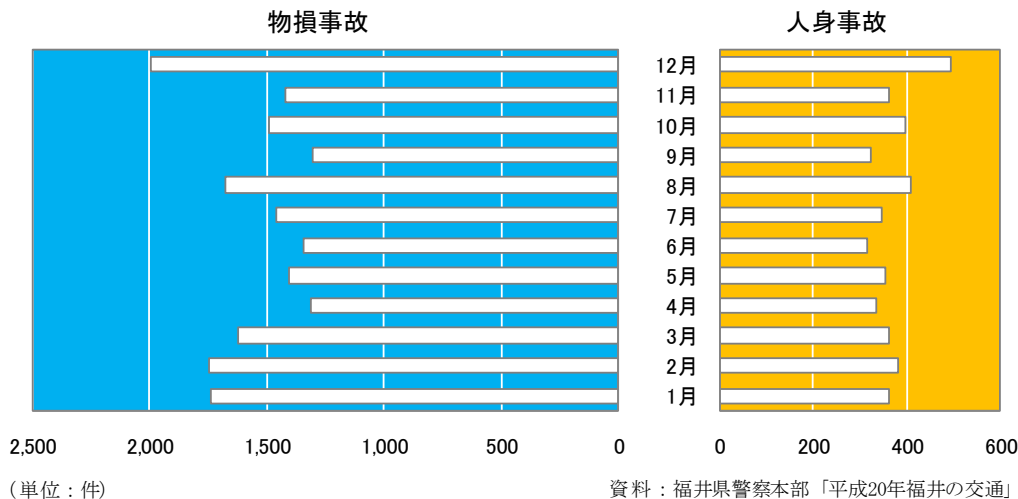
次に、食品以外の品目について見てみましょう(図4)。「腕時計」「テレビゲーム」「ハンドバッグ」などは、12月に圧倒的に支出が多くなっています。「腕時計」の支出は、7月も多いので、ボーナスなど、まとまったお金が入ったときに購入しているようです。「ハンドバッグ」は季節の変わり目ごと、「男子用コート」は3月と11月、12月に多く、「テレビゲーム」は、クリスマスプレゼントやお正月のお年玉として渡すことが多いのか、12月、1月の支出が多くなっています。



2 事故の多い福井の12月

何かと忙しい師走。福井県では、物損事故、人身事故は8月なども少なくありませんが、12月を筆頭に、全体として冬の季節に多い傾向があります。そこで、人身事故について、季節との関係を中心に、発生状況を詳しく見てみましょう。

(図5) 福井県の交通事故発生状況(平成18年~20年平均)

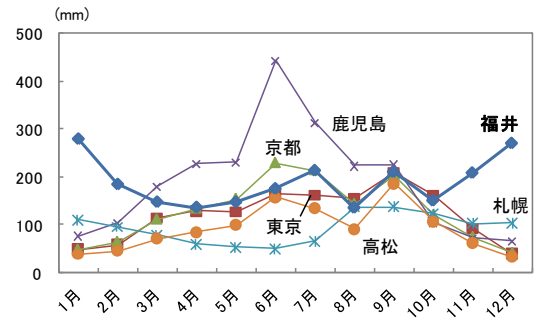


まず、降水量との関係を見てみましょう。

全国の多くの都市では、梅雨や台風などがある6月や9月の降水量が最も多くなるのに対し、福井県は、冬に降水量が最も多くなる傾向があります(図6)。

降水量や気温など、気候によって路面状態は大きく変わりますが、月別、路面状態別の人身事故発生件数を全国と比較しながら見てみると、福井県においては、8月なども件数も多くなっていますが、特に冬から春の初めの事故では、全国と比べ湿潤や積雪の状態での発生割合が高くなっていることが分かります。

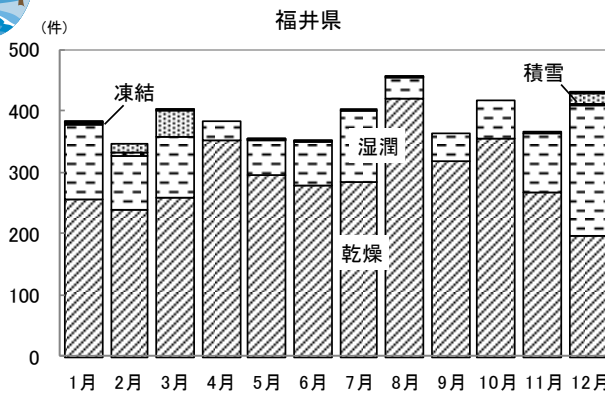
(図6) 年間降水量(昭和46年~平成12年平均)



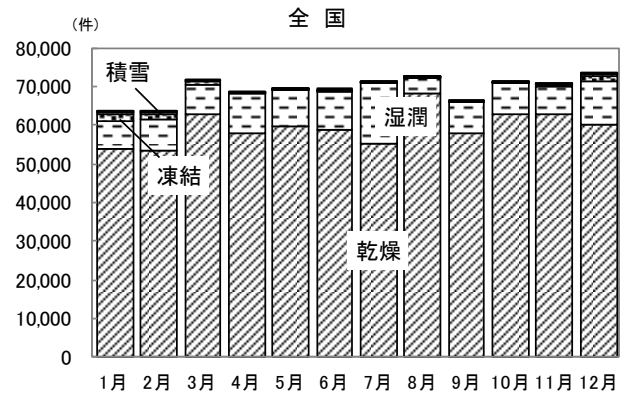
資料: 総務省統計局「日本統計年鑑 平成21年」



(図7) 月別、路面状態別人身事故発生状況(福井県および全国、平成19年)



資料: (財)交通事故総合分析センターホームページ



資料: (財)交通事故総合分析センターホームページ

次に、日照時間との関係を見てみましょう。

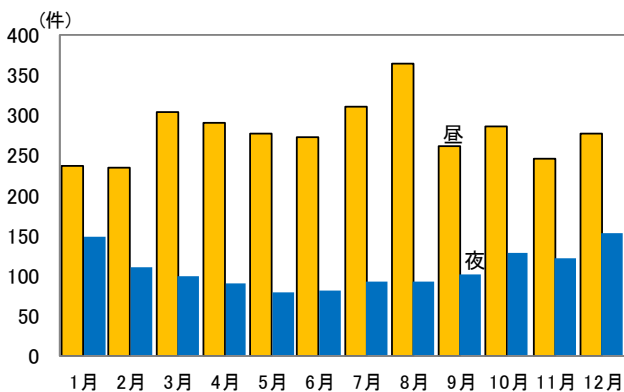
12月には冬至の日があるように、一年で最も夜が長くなる季節です。そこで昼夜別の人身事故発生状況(図8)をみると、夜の事故発生件数は概ね夜の長さに比例し、冬は夜の事故が多くなっています。

しかし一方で、夜の長さに反比例して時間が短くなる昼の時間帯でも、12月は事故発生件数が少なくありません。

そこで、さらに各月の昼と夜の時間当たりの人身事故発生状況(図9)を見てみると、夜は一年を通じて大きな変化がありませんが、昼は8月と12月が特に高くなっています。

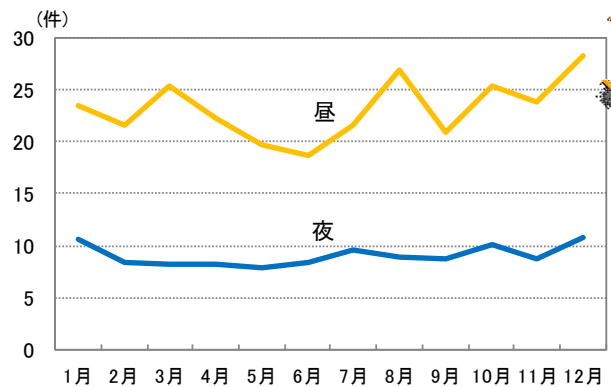
8月は、夏休み中の家族旅行やレジャーなどで外に出る機会が多いためと考えられますが、12月もクリスマスイベントや年末年始の準備、帰省などで、日中に外出する機会が多いことも事故発生件数の多い一因ではないかと思われます。

(図8) 昼夜別人身事故発生状況(福井県、平成19年)

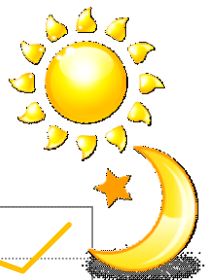


(注) 昼: 日の出から日没まで、夜: 日没から日の出まで
資料: (財)交通事故総合分析センターホームページ

(図9) 昼夜別時間当たり人身事故発生状況(福井県、平成19年)



(注) 昼(夜)の月別事故件数を、各月の昼(夜)の長さ(平成19年の福井県所在地の暦より算出)で除したもの
資料: (財)交通事故総合分析センターホームページ、国立天文台ホームページ

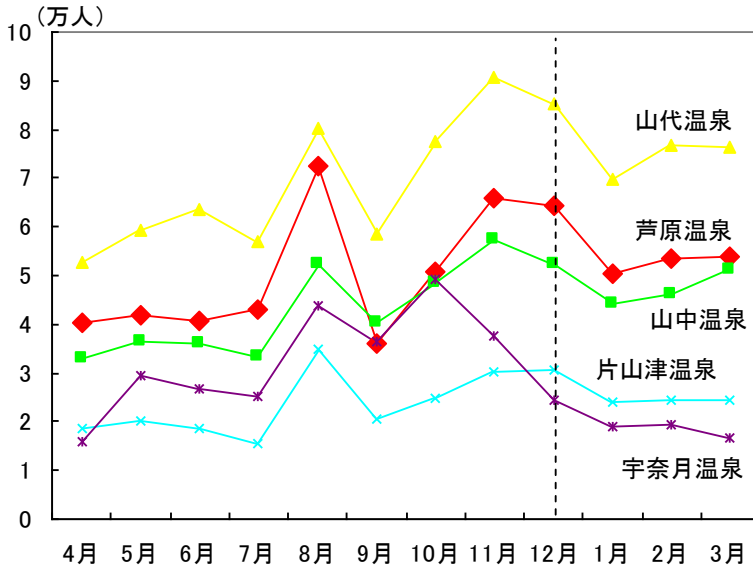


このように12月は、路面状態が悪くなりやすいことや、外出の機会が多いことなどの複合的な要因が事故増加の背景にあると思われます。

運転に当たっては、常に時間に余裕を持って慎重な運転を心がけることが大事ですが、運転条件が厳しく何かと慌ただしい12月は、特に安全運転を心掛けましょう。

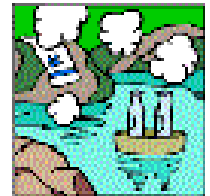
3 寒い季節は温泉で

(図10) 北陸の主要温泉地宿泊客数の月別推移 (19.4~20.3)



芦原温泉の月別の宿泊客数の動きを見ると、一番多いのは、夏休みのある8月ですが、それに次いで11月から12月の時期が多くなっています。また、北陸の主要温泉地の観光客数の動きを見ると、秋の紅葉シーズンとの関係か、10月が多いという温泉もありますが、多くの温泉で年末の利用客数が多くなっています。

忘年会シーズンということもありますが、やはり寒い季節は温泉が好まれるようです。



資料：北陸観光協会

『福井の温泉といえば…』

福井県で温泉といえば、芦原温泉が最も有名で、多くの方が訪れる温泉地ですが、ここ数年は、福井市や南越前町など、あわら市以外の地域の温泉にも多くの方が訪れています。

県内の人にとっては、より身近なところの温泉に、また、県外の人にとっては、いろいろな地域の温泉にというように、温泉の選択肢も広がっているようです。



(図11) 温泉を目的とした観光客の入込状況 (市町別) (延べ人数)

